

ファイカヒサークルの2つの目的

1. 収監された人がその人の大事な人や関係のない犠牲者への償い方を考え、前向きな人生やコミュニティーへの再加入に成功するに不可欠なニーズを充足する方法を見つける機会を提供すること。
2. 大事な人が罪を犯し収監されたことで傷ついた人に癒しの機会を提供すること。

誰でもファイカヒサークルが開けるのか

このプログラムを提供している刑務所に収監された人であれば、誰でも申し込むことができます。自らの過去の行動と服役による被害の修復に責任を持ち、法に従う人生の計画を立てたい人なら誰でも資格があります。

インタビュー

サークルの進行を担当するファシリテータはファイカヒサークルを申し込んだ人の話を聞きます。ファシリテータは収監された人の責任を明確にして誰がサークルに参加するかを話し合います。

ファイカヒサークルはいつ開かれるのか

サークルは通常、刑務所内で参加者の都合の良い時間に合わせて開かれます。サークルは平日、週末、昼間、夕方に、その日の刑務所職員の配置状況と家族のニーズによって開かれます。サークルは刑務所から釈放された人にも開かれます。

サークルの時間

通常は3時間です。

必要なセキュリティチェック

ファイカヒサークルを希望している人の刑務所での面会リストにない方はセキュリティチェックを受けてください。サークルのファシリテータに個人情報を提出したくない方は刑務所に直接提出してください。ファシリテータが所有するすべての情報は厳重に機密が保たれます。

ファイカヒサークル専門のファシリテータ

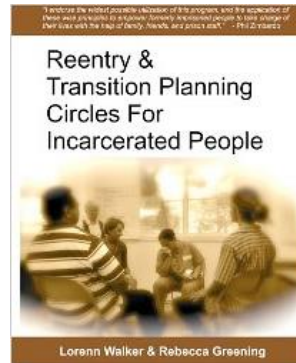
ファシリテータ全員が犯罪や薬物乱用により被害を受けた人や家族とかかわる際の経験を積んだ熟練のコミュニケーターです。彼らは家族が問題に対処するための資源を見つけるのを支援する人もあります。

ファイカヒサークルが開かれた後はどうなるのか

ファシリテータはグループがサークルで立てた再加入計画を文書化しそのコピーを参加した家族それぞれに渡します。

再サークル

フォローアップのサークルは刑務所内外で開かれます。再サークルの時間はもっと短く、計画の遂行状況や変化に焦点が当てられます。



ファイカヒ再加入サークルプログラム の問い合わせ先

プログラムコーディネーター

Lorenn Walker, JD, MPH

P. O. Box 3654

Honolulu, Hawai' i 96791

Tel +1 (808) 637 - 2385

lorenn@hawaii.edu

www.hawaiifriends.org

※ ファイカヒ再加入サークルに 参加すると

私はこのプログラムをできる限り広く活用することを勧めます。この優れた指針は、元受刑者が家族や友人、刑務所職員の助けを得て、自らの人生に責任を持つよう力づけます。

フィリップ・ジンバルドー

スタンフォード監獄実験 1971年

The Lucifer Effect: How Good People Turn Evil

※この言葉は修復的な再加入サークルの進行の目的にあわせ、ハワイ語のファイ（グループ）とカヒ（1）をつなげて、癒しと計画立案のためグループに集まった人のことをあらわしている。

ファイカヒ再加入サークルは修復的司法を基礎とした公衆衛生研究プロジェクトです。次のような成果が生まれています。

2013年11月現在

- ・2005年から106回のファイカヒサークルが開かれました。刑務所職員を含む500人の調査対象者の100%の人が、肯定的な回答をしています。
- ・収監されていた人がファイカヒサークルに参加し釈放後に再犯を犯したとしても、その人にとって大事な人はこのプロセスが前向きなもので癒しを得られるものだと確信しています。
- ・収監され、ファイカヒサークルに参加した人は、参加しなかった人と比べて釈放後、法に従う傾向が強い。

服役中の人のために対立や不正行為に対する12週間の解決志向による修復的司法コースが、それを希望した刑務所で実施され、修正版のファイカヒ再加入サークルが他の収監経験のある支援者も加わって、100回以上開催されました。

このプログラムの成果についての沢山の論文と2冊の本が出版されています。論文のダウンロードや更なる情報は hawaiifriends.wordpress.com で見られます。

ハワイフレンド (Hawai'i friends) 再加入方式はニューヨーク州、ヴァージニア州、テキサス州、カリフォルニア州でも同様に用いられています。

◆ ◆ ◆ ファイカヒサークルの流れ 歓迎とオープニング

収監されている人が自分の選んだやり方でサークルを開会します。次に皆が自己紹介します。

目的とガイドライン

サークルの目的は和解と癒しです。参加者の発言は一度にひとりだけです。守秘を尊重します。

収監されている人からの話

「私が刑務所内で達成したことで特に誇りに思うことは・・・」

強み

参加者は収監されている人と、(もし該当するなら) その子どもの好きな点話します。

仲直り

グループでの話し合い。「収監された人の行動や収監自体で影響を受けたのは誰ですか?」「それはどのような影響ですか?」「その被害の埋め合わせを手助けするために何をしたらよいでしょうか?」

小休止

収監されている人が今後望むこと

「これからの暮らしが以前とどのように違ってほしいか」というと・・・」

資源の選択についてのグループによる プレインストーミング

しっかり生きていく上で必要な住まい、家計、継続学習、仕事、交通手段、書類、心身の健康などについて話し合い、その実現に向けた計画を立てます。

再加入計画の立案

グループで、支援者を含めた計画やそれをやり終えるためのタイムテーブルを作ります。

次回のファイカヒサークルの日時の決定

次のサークルの日時を決めます。

サークルの終了

グループサークルが自分自身にとってどうであったか話し合い、皆がアンケートにその評価とサークルでの個人的体験を記入し、改善点を提案します。

◆ ◆ ◆ ファイカヒサークルに参加した人の声

- ・傷を癒してくれました。彼が出所した時のことを後ろ向きではなく前向きに見られました。
(収監中の男性の姉)
- ・父が僕の事を愛してくれていて、出所したら僕の所へ来てくれると分かりました。
(収監中の男性の13歳の息子)
- ・私が傷つけた人にお詫びできました。
(収監中の男性)
- ・過去の出来事についての気持ちを吐き出しました。
(収監中の男性との間に子供を持つ元恋人の女性30歳)
- ・父親についての理解が深まり、彼が出所した時に彼を支え、彼が善い行いをするのを助けることを理解した。
(収監中の男性の21歳の娘)
- ・私は正直になった。
(収監中の男性)
- ・私の家族は私を愛してくれていた。私は一人じゃなかった。
(収監中の男性)
- ・家族がまた一つになった。計画が出来て、コミュニケーションが取れた。
(刑務所職員)
- ・私は価値ある人間で、私だってできるさ! 自分の人生は自分で受けとめ生きていく。
(収監中の男性)
- ・互いの気持ちと私からの許しが通じ合いました。
(収監中の男性の20歳の娘)
- ・私たちがどんな被害を受けて、それを償うには何が出来るか話し合いました。
(収監中の男性の20歳の娘)
- ・私の強みを強調し、家族とまたつながって、その関係を改めるために何から始めるべきかの提案ももらった。
(収監中の男性)